



いきのまつばら

94

生の松原

- 所在地／福岡市西区生の松原 1
- 規模／幅 0.1～0.5km、長さ 1.8km、面積 40ha、樹齢 20～200年
- 指定／国定公園第1種特別地域、国指定史跡、防風保安林、風致地区
- 問合せ／九州大学早良実習場 電話 092-881-0216

福岡県



立地環境

博多湾の西半部、十郎川の河口付近から長垂山東麓に至る海岸線に成立した、クロマツを主とする松原です。

松原の今昔物語

元寇防塁の残る浜辺に官・民・学の力を合わせて守り継ぐ白砂青松

神功皇后が三韓出兵のおり、海岸に松の小枝を逆さにさして戦勝を祈り、その枝が生きて栄えたことから「生の松原」と名づけられたと伝えられます。

大正11年に九州大学の演習林となり、研究林として利用されてきました。現在はその1/3が福岡市の都市公園となっており、松原の管理には近接する中学高校のボランティア活動など、多くの市民も協力しています

昭和30年頃までは樹齢150年程度のクロマツ大径木が多い松原でしたが、昭和40～50年代にかけて松枯れが猛威をふるい、大径木は急速に減少しました。しかし、一方では昭和の間に20万本の植林がなされ、現在では樹齢70年から20年程度の松と、わずかに残った明治以前の松とが、明るく重厚な松原を作っています。

COLUMN

生の松原の一角にある杵岐神社には松の幹が奉納されており、神功皇后ゆかりの松が寿命を終えた姿だといわれます。松原に立つと、東北方向に「漢倭那国王」の金印が発見された志賀島を望め、前方には7世紀に対馬、杵岐とともに防人が配置された能古島があります。小戸から今津まで、松原と砂浜の境界線付近に元寇防塁の石積みが断続的に現存しており、生の松原付近では防塁が復原されています。松原一帯は、歴史愛好家にとって興味深い場所です。

ACCESS

●電車やバスの場合

JR筑肥線下山門駅から徒歩5分

●車の場合

福岡市中心部から10km。道路が松原を縦貫
駐車場無し

